

令和 6 年度 清原南小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に，知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し，日本の伝統や文化を大切に，平和な国家の形成者として，21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子供を育成する。

たくましい子 元気に運動し，健康でたくましい心と体をつくる。

思いやりのある子 ルールやマナーを守り，協力して生活する。

よく学ぶ子 基礎・基本を身に付け，進んで学習する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と，148年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち，子供への愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み，自らの資質・能力を高めるとともに自己変革に努め，教育目標達成のために全力を尽くす。

また，先人に感謝しつつ，母校への誇りと自己の尊厳を高めるような教育活動を展開し，持続可能な社会の創り手となる子供たちが「未来を生き抜く人間力」を身に付けるため，知・徳・体のバランスのとれた力の育成に取り組む。そのために，児童・教職員・保護者・地域が連携し，多様な活動を通して地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれた地域とともにある学校づくりの推進
- (2) ○成長し続ける基盤となる知・徳・体のバランスのとれた力の育成
- (3) ○新しい時代を生きるために必要な資質・能力の育成
- (4) 児童の様々な状況に対応した指導・支援の充実
- (5) 学び続ける教職員としての資質・能力とチーム力の向上
- (6) 業務の効率化と勤務時間を意識した働き方改革の推進

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ，自己のよさを生かした夢の実現に向けて，主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，同施行規則，新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」，宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和6年度指導の重点」を踏まえて，公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列して，それぞれが充実した調和と統一ある教育課程を編成する。
- (3) 「うつのみや学校マネジメントシステム」の結果を受け，本年度の学校教育目標・学校経営の方針を踏まえて，実態に応じた指導が計画的に行われるようにし，PDCAサイクルを確立して改善を図る。
- (4) 「地域とともにある学校づくり」を推進するため，地域協議会との連携により，地域の特性や願いを基に児童に必要な資質・能力を明確にし，地域の人的・物的資源を活用して，社会に開かれた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校経営
 - ・教職員の人権意識の高揚を図り，同僚並びに児童の人権を尊重した職場づくり
 - ・積極的な授業公開，課題解決の糸口を考えた効果的な取組の共有，教職員としての資質・能力向上，学び合う教師集団の育成
 - ・デジタル機器の活用，対話を基にしたOJTと協働体制の推進，業務改善委員会による改善案の取組並びに地域協議会と連携した外部人材の活用による業務の効率化
- (2) 学習指導
 - ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ・授業改善の推進及び「宇都宮モデル（はつきり，じっくり，すっきり）」における各過程の指導の充実
 - ・特別支援教育の視点を取り入れた課題提示や学習展開の工夫，根拠を基にした考えを安心して伝え合い，深め

たり広げたりできる教師のコーディネート力の向上

・現代的な諸課題（SDGs、人権教育等）に対応していく資質・能力を育成するため教科横断的な学習の充実

(3) 児童指導

・いじめ・不登校対策の充実を図るため、居がいのある学級づくり、規範意識の醸成、教育相談の充実、課題の早期発見・早期対応への組織的取組の実施

・児童の活躍の場と自らの成長を振り返る場の設定、一人一人のよさや努力を励ます指導による自己有用感や自己肯定感の育成

・児童の発想を活かした行事運営や異学年交流活動の推進、自主性や主体性の育成、リーダーシップ及びフォローアップの醸成

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

・運動量を確保した授業や児童の体力に応じた補強運動、業間遊び、教育活動全体を通して運動の機会を創出した体力向上の推進

・自己の健康課題を把握し、生活習慣の改善や健康の保持増進に努めることができるよう、家庭と連携した健康管理能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考える等、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながらじっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 児童肯定的回答 85%以上	・1人1台端末を積極的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させられるように努める。 ・学習課題や解決への見通しをはっきりさせるめあてを提示し、児童が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 ・話し合いの時間を確保する他に、学習形態の工夫をすることで、協働的に課題解決に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.5%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・1人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させられるように努める。 ・「宇都宮モデル」をもとに、学習課題や解決への見通しをはっきり提示し、児童が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 ・話し合いの時間を確保する他に、学習形態の工夫をすることで、協働的に課題解決に取り組めるようにする。 ・振り返りの場では、「きょうなん de ふり返しカード」を使うことで、自分の成長を実感できるようにする。
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 85%以上	・道徳的価値を自分との関わりの中から捉えられるような道徳の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。また、「ふわふわ言葉、ちくちく言葉」を考え、相手目線に立った言葉遣いができるように指導し、円滑な人間関係の構築を図る。 ・人権週間の心ぼかばか運動で、各クラスからメッセージカードを集めて、各クラスに掲示することで、児童の自己有用感や肯定感を高められるようにする。 ・児童同士の呼び方について、さんをつけて呼ぶよう通年で指導する。 ・読み聞かせボランティアだけでなく、教職員による読み聞かせも行い、本とのふれあいをさらに充実させる。併せて、読書啓発活動やファミリー読書を推進し、豊かな心を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.4%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・道徳的価値を自分との関わりの中から捉えられるような道徳の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。 ・「ふわふわ言葉、ちくちく言葉」「さんづけでの呼び方」等、相手の気持ちを考えた言葉遣いができるように継続して指導し、円滑な人間関係の構築を図る。 ・人権週間では、各学級のメッセージカードを1階ホールに掲示し、児童の自己有用感や肯定感を高める。 ・ボランティアだけでなく、教職員による読み聞かせも行い、本とのふれあいをさらに充実させるとともに、読書啓発活動やファミリー読書を推進し、豊かな心を育む。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	・本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができる授業を展開できるよう工夫する。 ・発達段階に合った振り返りカードを利用し、授業で振り返りの時間を設けることで自主性を育みながら目標達成に向けて取り組み、成就感が味わえるようにする。 ・各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設け、児童の自己肯定感を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 88.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができる授業を展開する。 ・授業での振り返りの際「<u>きよなん de ふり返しカード</u>」を活用し、自分の成長や頑張りを実感できるようにする。 ・各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設け、児童の自己肯定感を高める。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活をしている。」 児童肯定的回答 90%以上	・感染症対策への取組を継続しながら、教育活動に取り組む。 ・自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けるため、交通安全・生活安全・災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施する。 ・登下校については、一斉下校時の時間を活用して、交通ルールや安全な登校の確認を行う。 ・各学年で決めた生活目標と関連を図りながら学校の決まりや安全な過ごし方を定期的に確認し振り返る場を設け、けがのない安全な生活についての意識付けを図る。 ・家庭と連携を図り、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。 ・おにぎりの日やお弁当の日を実施する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.8%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けるため、避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施する。 ・登下校については、一斉下校時の時間を活用して、交通ルールや安全な登下校の仕方の確認を行う。 ・各学年で決めた生活目標と関連を図りながら、学校の決まりや安全な過ごし方を定期的に確認する場を設け、けがのない安全な生活への意識付けを図る。 ・家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力したりして生活をよりよくしようとしている。」 児童肯定的回答 80%以上	・全職員でキャリア・パスポートの考え方について共通理解を図り、同一歩調で取り組むことを通して、学習の様子や活動の振り返りを積み重ね、自己理解を深めたり、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成していく。 ・「私の夢」は継続して掲示し、お互いに励まし合える環境を醸成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.2%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・キャリア・パスポートの考え方について全職員で共通理解を図り、同一歩調で取り組み、学習の様子や活動の振り返りを積み重ねて自己理解を深めたり、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 ・「私の夢」は継続して掲示し、<u>児童同士がお互いに認め</u>、励まし合える環境を醸成する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やAETとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童肯定的回答 90%以上	・積極的なALTの活用を進め、児童の生きた英語に触れる機会を充実させるとともに、1人1台端末を活用しながら、英語によるやり取りを中心とした活動を工夫することで、英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ・中学年のローマ字学習や高学年の外国語で、簡単な語句や基本的な表現を書く活動を積極的に取り入れ、英語を使って表現しようとする意欲を高める	【達成状況】 児童の肯定的回答 79.5%であり、目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ・積極的にALTや1人1台端末を活用し、児童の生きた英語に触れる機会を充実させる。 ・英語によるやり取りを中心とした活動を工夫し、<u>できたことを認め、自信をもたせるとともに</u>、英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ・簡単な語句や基本的な表現を書く活動を積極的に取り入れ、英語を使って表現しようとする意欲を高める。

	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 児童肯定的回答 80%以上	・生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」、道徳の地域教材を通して宇都宮のよさへの理解を深め、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ・各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、今後も積極的に地域と連携して活動ができるようにしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 84.9%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」、道徳の地域教材を通して宇都宮のよさへの理解を深め、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ・各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、今後も積極的に地域と連携して活動を継続する。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 75%以上	・教職員が ICT 機器を効果的に活用できるよう、校内研修等を充実させることと、児童が ICT 機器に適切に活用できるような授業改善に、引き続き取り組む。 ・学校図書館司書業務との連携を密に取りながら、計画的な学校図書館の活用と図書資料の充実を図る。 ・児童が情報化社会に主体的に参画できるように、デジタルシティズンシップ教育を意識した指導に努めていく。 ・1人1台端末や学校図書館を活用した学習の様子や、活動している様子を、各種たよりやHPで積極的に発信し、啓発を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.2%、保護者の肯定的回答は 84.9%であり、児童は目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ・児童が ICT 機器や図書資料を適切に活用できるような授業改善に、引き続き取り組む。 ・学校図書館司書業務との連携を密に取りながら、計画的な学校図書館の活用と図書資料の充実を図ったり、<u>図書館司書と授業を実施したりする。</u> ・児童が情報化社会に主体的に参画できるように、デジタルシティズンシップ教育を意識した指導に努めていく。 ・1人1台端末や学校図書館を活用した学習の様子や活動している様子を、各種たよりやHPで積極的に発信し、啓発を図る。
2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 児童肯定的回答 80%以上	・命やものを大切にする意識を育み児童の「持続可能な社会」への実践力を養えるよう、各教科・領域の年間指導計画に確実に位置付ける。 ・各委員会活動の取組や各学級での一般ごみや給食の際に出るごみの分別等、児童の実体験と結び付けた活動を行うことで、「持続可能な社会」に参画しようとする態度を養う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.5%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・命やものを大切にする意識を育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養えるよう、各教科・領域の年間指導計画に確実に位置付ける。 ・各委員会活動の取組や各学級でのごみの分別等、児童の実体験と結び付けた活動を行うことで、「持続可能な社会」に参画しようとする態度を養う。 ・<u>SDGs17 の目標の達成に対する意識の改革を図っていけるような活動に積極的に取り組む。</u>
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 95%以上	・児童指導主任や特別支援コーディネーターを中心に組織的な支援を継続していく。 ・学年内で日常的に児童指導面での情報を共有し、児童理解を深める。 ・児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用し、個別最適な学びが実現できるよう教材研究を行うことで、分かりやすい授業を展開する。 ・個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を継続的に行う。 ・外部の関係機関と連携して支援を継続する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 96.6%であり、目標を達成できた。 【次年度の方針】 ・児童指導主任や特別支援コーディネーターを中心に組織的な支援を継続する。 ・日頃から学年内で児童指導面での情報を共有し、児童理解を深める。 ・児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用し、個別最適な学びが実現できるよう教材研究を行うことで、分かりやすい授業を展開する。 ・個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を継続的に行う。 ・外部の関係機関と連携し、よりよい支援を継続する。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 90%以上	・「清原南小いじめ防止基本方針」に基づいていじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ・定期的に位置付けられたいじめアンケートや教育相談を実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応に努める。 ・児童会主催による「いじめゼロ集会」やいじめゼロ宣言、関連する道德の授業の実践等を通して、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解が得られるようにしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.0%であり、目標を達成できた。 【次年度の方針】 ・「清原南小いじめ防止基本方針」に基づいていじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ・定期的に位置付けられたいじめアンケートや教育相談の実施、<u>休み時間の見守り</u>を行い、組織的にいじめの早期発見・早期対応に努める。 ・児童会主催による「いじめゼロ集会」やいじめゼロ宣言、関連する道德の授業の実践等を通して、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解と協力が得られるようにする。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 教職員肯定的回答 90%以上	・教育活動全体を通して、児童の自己肯定感を高める場を積極的に設定する。 ・Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かした学級経営を行う。 ・外部機関との連携やスクールカウンセラー等を活用しながら児童理解に努めるとともに、保護者と情報を共有し、共に支援していく関係を構築していく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100.0%であり、目標を達成できた。 【次年度の方針】 ・教育活動全体を通して、児童の自己肯定感を高める場を積極的に設定する。 ・Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かした学級経営を行う。 ・外部機関との連携やスクールカウンセラー等を活用しながら児童理解に努めるとともに、保護者と情報を共有し、共に支援していく関係を構築する。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり問題を解決しようとしたりして児童が楽しく学校生活を送れるようにしている。」 児童肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 85%以上	・引き続き行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善を図り計画を見直すことにより、児童がいいききと活動できる工夫をする。 ・教育相談や日常の個別指導等を継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・自己の成長や達成感が感じられるように、活動のめあての確認や振り返りを通して、自己の成長を自覚できるようにし、児童の意欲向上に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.7%、保護者肯定的回答は 87.0%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう計画を見直し、改善を図ることにより、児童がいいききと活動できる工夫をする。 ・教育相談や日常の個別指導等を行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・自己の成長や達成感が感じられるように、活動のめあての確認や振り返りを通して、自己の成長を自覚し、児童の意欲向上に努める。
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 「教職員は、一人一人が理解できるように教材を工夫する等きめ細かな指導をしている。」 児童肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・1人1台端末等のICT機器の効果的な活用や積極的な授業公開、校内研修を通じ、授業改善や教員の資質・能力の向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業の展開に努める。 ・本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組んだり、学習の終末に振り返りを行うことで、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させたりしながら、次時への学習意欲の向上を図る。 ・児童の学習の様子や活動の様子を、各種たよりや学校HPで積極的に発信し、啓発を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.0%、保護者の肯定的回答は 86.8%と、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・1人1台端末等のICT機器の効果的な活用や積極的な授業公開、校内研修を通じ、授業改善や教員の資質・能力の向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業の展開に努める。 ・「<u>宇都宮モデル</u>」をもとに、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組み、学習の終末に振り返りを行うことで、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させるとともに、次時への学習意欲の向上を図る。 ・児童の学習の様子や活動の様子を、各種たよりや学校HPで積極的に発信し、啓発を図る。
4- (1) 教職員の資質・能力の向上			

4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 90%以上	・全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を果たしながら協働的に取り組んだり、ベテランから若手への教育技術を継承したりすることを通して教育目標の達成を目指す。 ・教育活動全体を通して職員同士が積極的に関わることで同僚性を発揮し、互いの持ち味が活かせる「チーム学校」を構築する。 ・報告・連絡・相談を徹底するとともに、学年主任会や学年会で連携を図りながら学校全体で情報を共有し、組織的に対応に当たる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を果たしながら協働的に取り組んだり、ベテランから若手への教育技術を継承したりすることを通して教育目標の達成を目指す。 ・教育活動全体を通して積極的に関わることで同僚性を発揮し、互いの持ち味が活かせる「チーム学校」を構築する。 ・報告・連絡・相談を徹底し、学年主任会や学年会で連携を図り学校全体で情報を共有し、<u>状況に応じた迅速な対応を組織的に実施する。</u>
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 80%以上	・リフレッシュデーを月2回設定し、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務状況を構築する。 ・校務分掌や学年・学校単位の組織で、業務の精選を行うとともに、ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、業務の軽減や効率化を図る。 ・金曜日課や臨時日課等、日課表等を工夫して、事務処理や教材研究等の時間を確保する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 89.7%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・リフレッシュデーを月2回設定し、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に努める。 ・校務分掌や学年・学校単位の組織で、業務の精選を行うとともに、ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、業務の軽減や効率化を図る。 ・金曜日課や臨時日課等、日課表等を工夫して、事務処理や教材研究等の時間を確保する。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」 児童肯定的回答 80%以上 教職員肯定的回答 90%以上	・清原地域学校園教育ビジョンに基づき、人との豊かな関わりを通して自らを見つめ直し、主体的に取り組む児童生徒の育成を重点として小中一貫教育を実践する。 ・各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、協働体制を継続していく。 ・学校園の研修や情報交換等を通して、清原地域学校園としての基礎学力の向上や基本的生活習慣の向上を図るとともに、実践の様子をHPや各種たよりで発信、周知に努める。 ・地域学校園の各部会の進捗状況について情報交換をする機会をもつ。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.4%、教職員の肯定的回答は 100.0%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ○清原地域学校園教育ビジョンに基づき、人との豊かな関わりを通して自らを見つめ直し、主体的に取り組む児童生徒の育成を重点として小中一貫教育を実践する。 ○効率的な学校運営を支援するため、学校園内の学校一人配置職員の連携を密にし、協働体制を継続していく。 ○学校園の研修や情報交換等を通して、清原地域学校園としての基礎学力の向上や基本的生活習慣の向上を図るとともに、実践の様子をHPや各種たよりで発信、周知に努める。 ○地域学校園の各部会の進捗状況について情報交換をする機会をもつ。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充	・地域協議会や学校支援ボランティアを中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備	【達成状況】 地域の肯定的回答は 95.2%であり、目標を達成することができた。

5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 地域肯定的回答 85%以上	の充実を図る。 ・地域や企業との関わりを保ち、取組内容や方法を工夫しながら実践するとともに、その活動の様子を学校HPや各種たよりで発信し、保護者・地域の学校教育への理解と協力を得られるようにする。 ・地域クリーン作戦や感謝の会、見守り立哨指導等の実施や学習ボランティアの活用により、児童の望ましい成長を図る。	【次年度の方針】 ・学校運営協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ・地域や企業と連携した活動は、デジタル機器を効率的に活用して取り組む等、内容や方法を工夫しながら実践し、その様子を学校HP等で発信することにより、保護者・地域の学校教育への理解と協力を得られるようにする。 ・地域クリーン作戦や感謝の会、見守り立哨指導の実施や学習ボランティアの活用により、児童の望ましい成長を図る。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員肯定的回答 95%以上 保護者肯定的回答 85%以上	・月に一度の全教職員による安全点検並びに教職員の巡視の機会等を利用した日常的点検を充実させ、危険個所の迅速な対応に努める。 ・危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。また、児童自らが危険を予測し回避する等、命を守るための行動力を育成する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100.0%、保護者の肯定的回答率は 94.2%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・日常的点検や月に一度の全教職員による安全点検を十分に行い、危険個所の発見と迅速な対応に努める。 ・危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。また、児童自らが危険を予測し回避する等、命を守るための行動力を育成する。 ・さくら連絡網、保健だより等を活用して、家庭と連携し感染症対策に引き続き取り組む。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータ等のデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、授業や業務の改善にデジタルを積極的に活用している。」 教職員肯定的回答 85%以上	・教職員が、授業で効果的にデジタル機器を活用できるよう、ICT支援員と連携して普段の学習指導を行うとともに、教職員の技能向上を図る。 ・授業等で児童がデジタル機器に慣れ親しみ、デジタルシチズンシップへの理解を深め、有効に活用できる方法について研修の場を設ける。 ・プログラミング教材を活用し、ICT支援員と協力を図りながら、プログラミング教育の実践をする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 96.6%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・教職員が、授業で効果的にデジタル機器を活用できるよう、ICT支援員と連携して普段の学習指導を行うとともに、教職員の技能向上を図る。 ・授業等で児童がデジタル機器に慣れ親しみ、有効に活用できる方法について情報交換を行い、実践化を図る。 ・プログラミング教材を活用し、ICT支援員と協力を図りながら、プログラミング教育の実践をする。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 児童肯定的回答 90%以上 地域肯定的回答 85%以上	・児童会が主体となり、全校児童で「あいさつ運動」を継続して実施する。 ・発達段階に応じた挨拶の意義や効果について指導を行い、自発的な挨拶の啓発に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.9%、地域の肯定的回答は 95.2%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・全児童でのあいさつ運動を継続して実施する。 ・教職員から積極的に挨拶をして、挨拶の模範を示すようにする。 ・発達段階に応じた挨拶の意義や効果について指導を行い、啓発に努める。 ・学校内だけでなく、地域の方々に挨拶ができるような指導を積み重ねていく。

本校の 特色・課 題等	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 児童肯定的回答 85%以上	・今年度同様、「清原地域学校園の方針・約束・一日」を基に、日常の指導の充実を図っていく。 ・児童の実態に基づいて設定した「生活目標」の下、全職員の共通理解により同様の指導を行うことで、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.5%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・「清原地域学校園の方針・約束・一日」を基に、日常の指導の充実を図る。 ・児童の実態に基づいて設定した「生活目標」を全職員で共通理解し、同様の指導を行うことで、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。
	B3 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 「自分の子供は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 児童・保護者肯定的回答 80%以上	・授業参観や個人懇談等の機会に、「清原っ子家庭学習の約束」を話題にし、引き続き保護者と情報を共有し、協力を得ながら家庭学習の啓発を図る。 ・発達段階に応じて自主学習のやり方を教えたり、よい取組を広めたりする等、児童のよさや努力を認めて称賛する機会を積極的に設ける。 ・家庭学習がんばり週間を実施し、家庭と連携を取りながら、家庭学習への意欲付けや習慣化を図る。 ・1人1台端末やA Iドリルを活用し、個に応じた基礎的な知識及び技能の定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 81.7%、保護者の肯定的回答は 78.1%と、保護者は目標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・授業参観や個人懇談等の機会に、「清原っ子家庭学習の約束」を話題にし、引き続き保護者と情報を共有し、協力を得ながら家庭学習の啓発を図る。 ・発達段階に応じて自主学習のやり方を教えたり、よい取組を広めたりする等、児童のよさや努力を認めて称賛する機会を積極的に設ける。 ・家庭学習がんばり週間を実施し、家庭と連携を取りながら、家庭学習への意欲付けや習慣化を図る。 ・1人1台端末やA Iドリルを活用し、個に応じた基礎的な知識及び技能の定着を図る。
	B4 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、休み時間や放課後等に進んで運動している。」 児童肯定的回答 80%以上	・毎週月曜日は、業間に外へ出て運動し、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。 ・「とち木っ子体力雷ジグ広場」を活用して、楽しみながらさまざまな運動遊びにチャレンジできるようにする。 ・デジタル機器を活用し、模範的な動きを児童に示すことで分かる授業を展開するとともに、運動への意欲付けを図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 81.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・毎週月曜日の業間を、<u>パワーアップタイム</u>とし、全校児童に外遊びを奨励することで、体を動かすことの楽しさを感じられる機会にする。 ・<u>児童会活動で、児童が主体的に運動に関するイベントを企画することで、様々な運動にチャレンジできるようにする。</u> ・デジタル機器を活用し、模範的な動きを児童に示すことで分かる授業を展開するとともに、運動への意欲付けを図る。
	B5 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 90%以上	・今年度の学校課題「算数科における指導と評価の一体化ー生き生きと活動する児童の姿を目指してー」での校内研修や授業研究で得た成果を基に、見通しを持って単元計画を作成し、児童の様子を見取りながら授業改善に努めることで日々の実践に生かしていく。 ・ブロックや学年内における話合いの場を多くもつことで OJT を活性化し、互いを高め合える学校風土を醸成していく。 ・次年度も継続して、地域学校園と適切に連携を図り研修を推進していく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100.0%と、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・学校課題「算数科における指導と評価の一体化ー生き生きと活動する児童の姿を目指してー」での校内研修や授業研究で得た成果を基に、<u>次年度も、指導と評価を一体化させた授業作りを行う。</u> ・ブロックや学年内における話合いの場を多くもつことで同僚性を高めたり、OJT を活性化させたりして、互いを高め合える学校風土を醸成していく。 ・今後も継続して、地域学校園と適切に連携を図り研修を推進していく。

	B 6 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、読み聞かせ・農園活動・校外学習等地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	・学校図書館の「学習・情報センター」としての機能を活用することで、本とのふれあいを促進していく。 ・ボランティア、担任、担任以外の教師による読み聞かせを継続し、本とふれあう機会を設ける。 ・体験活動を通して地域の人々や自然とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養えるようにしていく。 ・縦割り班活動や学校行事の内容を、児童同士の関わりを大切にしたい取組になるよう再検討し、思いやりの心や協調性を育む。 ・地域協議会と連携して学習ボランティアの活用を図り、教育活動をより豊かなものにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 85.7%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・学校図書館の「学習・情報センター」としての機能を活用することで、本とのふれあいを促進していく。 ・ボランティア、担任、担任以外の教師による読み聞かせを継続し、本とふれあう機会を設ける。 ・体験活動を通して地域の人々や自然とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養えるようにする。 ・学校運営協議会と連携して学習ボランティアの活用を図り、教育活動を豊かなものにする。
--	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度は、これまで制限していた教育活動を学校の実態に合わせて工夫・改善しながら再開し、昨年度より活動を充実させることができた。学校マネジメント評価において、80%以上の肯定的回答を得た項目は、児童評価 19/20、保護者評価 13/17、地域住民評価 10/10、教職員評価 25/25 と多く、全体として学校教育に関する満足度及び達成度は高い。この状況から、児童は概ね落ち着いて生活し、学習への取組状況も良好であると言える。今後も、実態に即した指導・支援を継続していきたい。

・A 2「児童は、思いやりの心をもっている。」、A 3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」、A 5「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」、A 9「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」の項目は、昨年に比べ児童や教職員の肯定的回答が上回った。

・A 1 2「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」については、児童・教職員・保護者の肯定的回答が昨年度及び市の数値より上回った。今後も外部機関やスクールカウンセラー、Q-U 等を活用して児童理解に努めるとともに、保護者と情報を共有し問題の早期発見・早期改善に努めたい。

・A 1 4「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」は、保護者の肯定的回答が昨年度より 9.2 ポイント上回った。今後もよりよい授業を目指し研鑽していきたい。

・A 1 6「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」は教職員の肯定的回答が昨年度より 12.8 ポイント上回り市の平均に近づいた。デジタル連絡ツールやミライムのワークフロー機能（デジタル起案）を活用しペーパーレスを図るなど、様々な取組の成果が出てきている。

・A 1 8「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校経営の充実を図っている。」の項目は、児童・教職員・保護者・地域の全てで数値指標が高い。今後もコロナ後の教育活動の見直しを図りながら、引き続き連携・協力して活動の充実を図っていききたい。

・課題としては、A 6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」の項目で、児童の肯定的回答が 79.5%で昨年度の数値及び市の回答を下回った。デジタル教科書の活用や A L T とのやり取りを積極的に取り入れ、できたことを認め、褒めることで自信をもたせるなど、英語に対する苦手意識を改善していきたい。

・A 8「デジタル機器の活用」については、児童、教職員の肯定的回答が市平均を下回った。今後は効果的な活用に向け更に授業研究等に取り組んでいきたい。

○B 1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目は、児童・保護者・地域で肯定的回答が昨年度を下回った。あいさつの大切さについて適宜指導するだけでなく、小中一貫あいさつ運動や児童会でのあいさつ運動などを実施し、保護者・地域と連携してあいさつの定着を図っていききたい。

・B 4「児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。」においては、児童は 80%を上回ったものの教職員や保護者の肯定的回答は昨年度を下回っている。今後は、パワーアップタイムなどを中心に主体的に運動する機会を作り、進んで運動する習慣の定着を図っていく。

7 学校関係者評価

・コロナ禍の影響で教育環境も変化せざるを得ない状況の中、しっかりと対応していただきありがたい。

・学校教育活動を工夫・改善し対応していることで、ほぼ全ての項目で目標が達成できたことは、日頃の地道な取組が評価されたものと思われる。

・あいさつ運動に関しては家庭の声掛けも大切である。保護者も参加できるあいさつ運動もあるとよいのではないかな。

・きまりは「ルール」なのでしっかり守る、マナーは「礼儀作法」なのでしっかり身に付けさせたい。これは家庭との連携が必要である。

- ・外国語教育に関しては、じっくりと長い目で見守るとともに、小中の連携をより一層強化して指導していく必要があると感じる。教室に簡単な英語の本を置くなど、英語への敷居を低くする取組を工夫してみてもどうか。
- ・自主学習の仕方が分かっていない児童が見られるので、具体例の提示、まとめ方、ノートの使い方等も含め指導をしてほしい。
- ・いじめや不登校の指導に関しては、勤務時間を意識し業務の効率化を図るのは難しい。健康に留意し対応してほしい。
- ・いじめに関して教職員の継続した指導・取組、研修が行われている。教職員と児童と一緒に関わって取り組むことは、他人を思いやる心を育む機会となると思われる。
- ・教職員が頑張りを認めてくれることで自己肯定感をもつことができると思うので、今後も続けてほしい。
- ・地域や企業の方とふれあう活動が復活し、違う年代、様々な業種の方との関わり合いが生まれ、多くの学びがあると思われる。継続を期待する。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

多くの項目において市の肯定的回答と同等となったのは、コロナ前に取り組んでいた学校行事や学年での諸活動を工夫・改善しながら再編に取り組んだことが評価されたのではないと思われる。

次年度については特に以下の点について取り組んでいきたい。

○挨拶については、引き続き児童会や地域学校園でのあいさつ運動等の機会を活用するとともに、家庭との連携を図りながら挨拶の啓発に努める。

・デジタル機器や図書等の活用や英語を使ったコミュニケーションについては、ICT 機器や図書等の有効な活用方法についてさらに研鑽を深め情報活用能力の育成を図るとともに、ICT 支援員や図書館司書、ALT との連携をとりながら、主体的・対話的で深い学びができるよう努めていく。

・いじめ対策については、あらゆる教育活動を通して「いじめは絶対に許されないこと」を全職員が共通認識のもと継続して指導するとともに、アンケート、教育相談、いじめゼロ集会、SC の活用などにより、不登校の未然防止、早期発見・早期対応、解決に努める。

・本校の特色である「地域に開かれた地域とともにある学校」の一環として、高田沼や鬼怒川等の教育資源の有効活用や地域に住む方々にご協力いただきながら、地域と学校が連携した教育活動に取り組んでいく。

・学校 HP や各種たより（さくら連絡網で配信）の一層の充実を図り、学校行事だけでなく日々の教育活動についても積極的に情報を発信していくことで、本校の教育目標や教育活動を家庭や地域に理解していただき、一層の連携・協力を推進したい。